

配送ロボット RICE 導入 日経産業新聞掲載のお知らせ

京都武田病院の外来と検査科で利用している配送（検体配送）ロボット RICE が、医療最前線として日経産業新聞に掲載されました。

掲載日：令和6年1月18日（木）

新聞：日本経済産業新聞 朝刊

紙面：P8.「医療・介護最前線」コーナー

【第三種郵便物認可】

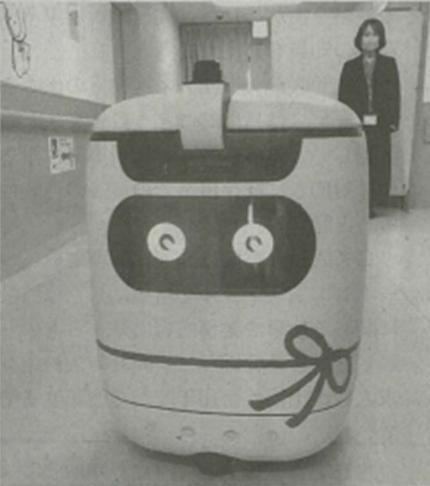
医療・介護
最前線

京都武田病院（京都市）
は配送ロボットの導入や独自ソフトの開発でデジタル化に取り組んでいる。グループで10カ所以上のクリニックや介護施設を運営する地域の中心的な医療拠点だ。効率的な働き方で人手不足が深刻化する医療人材の採用につなげている。

「ヒビー。ヒビー」。JR京都駅から車で15分ほどの京都武田病院では高さ70センチほどの白いロボットが電子音を出しながら廊下を

京都武田病院（京都市）

検体運搬ロボで効率化



検体の運搬にロボットを導入して技師などの負担を減らす（京都市）

走っている。血液検査などの検体を外来の診察室から検査室に運ぶ配送ロボット。ロボは50センチほどの廊下を1日20回近く往復する。上部の蓋を開けて検体を入れると廊下を走行して検査室まで運ぶ仕組みだ。高性能センサーのLiDAR（レーザー）や超音波センサーで障害物や人をよける。検査技師は「1人分ずつ採取した検体を手持って廊下を歩き来していた負担がなくなった」と話す。

ソフトバンクが提供する配送ロボ「RICE」を2023年3月に導入した。全国のオフィスビル内などで食料品の配送などに使われ始めているが病院での活用は初めてという。京都武田病院の福田武司ICT部長は「これまでに1カ月あたり30時間分の業務削減効果があった」と試算する。現在は一部の外来患者の検体だけを扱う。福田氏は効果が確認できたことから活用範囲を広げる考えだ。入院患者が1階の売店で買入る物をする際にロボが代わりにエレベーターに乗って商品を届けるといった用途を見込む。本体価格や設定で約500万円の初期費用がかかるが「2年ほどで償却できる」（福田氏）として、以前のシステム開発も始めた。職員同士の連絡や治療方針など会議の議事録、スケジュール管理をとりまとめて効率化する。

京都武田病院は1981年に設立した。病院は一部の設備が築40年たち「患者の待ち時間を減らしたり職員の働きやすさを改善した競争が激しくなるなか、デジタル活用で優秀な人材採用やつなぎ留めを目指す」（京都支社 新田栄作）